

都道府県名	宮 崎 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	小林立小中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	6	1	19	40
生徒数	219	228	205	3	652	

研究の概要

1. 研究主題

<p>自ら学び、自ら考え、意欲的に学習する生徒の育成はどうあればよいか ～ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る教科指導を通して ～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・全教科</p> <p>生徒や保護者を対象とした「学習に関するアンケート調査」の結果や「標準学力検査」の結果から、全教科にわたり学習意欲を高め、望ましい学習態度や学習習慣を身に付けさせ、基礎・基本の定着を図る教科指導研究に取り組むため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>ア 各教科において、学習指導方法の在り方や評価の在り方を究明することで、基礎的・基本的な内容を定着させ、生徒に達成感を味わわせる。</p> <p>イ 基本的な学習態度やよりよい学習環境の在り方を究明することで、生徒の自主的な学習態度や学習意欲を高める。</p> <p>ウ 家庭や小学校との連携の在り方を究明することで、望ましい学習習慣の定着や系統的な学習の充実を図る。</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>ア 各教科の授業において、生徒の実態や教科の特性に応じながら、指導方法の工夫・改善を図り、適切に評価していけば、生徒は基礎的・基本的な内容を確実に習得し、達成感を味わえるであろう。</p> <p>イ 生徒会活動と連携しながら、基本的な学習態度の確立を目指した取組を展開したり、掲示物や個に応じた学習支援を工夫したりすれば、生徒は自主的で意欲的な学習をするようになるであろう。</p> <p>ウ 生徒の学力の実態や学習に関する意識等を調査・分析して、家庭や小学校との効果的な連携を図れば、望ましい学習習慣の定着や系統的な学習の充実が図られるであろう。</p> <p>研究の内容・方向</p> <p>本校では、授業研究班、学習環境研究班、調査・連携研究班の3つの研究班を構成し、相互の関連性を考慮しながら次の研究内容に取り組んだ。</p>
--------	---

【授業研究班】

ア 指導体制の工夫

(7) 少人数指導の推進

- a 英語科では、第1学年で習熟度別編制の少人数指導を行っている。アンケート調査や面談を経て「Advancedコース」と「Basicコース(10名程度)」を編制して実施している。
- b 理科では、第1学年で等質編制の少人数指導を行っている。
- c 数学科では、第3学年で等質編制の少人数指導を行っている。
- d 加配教員のない社会科において、第1学年で試験的に少人数指導による授業を行った。毎時間ではなく、単元「鎌倉時代と室町時代」、「地形図の読み取り」で学習内容の定着を目的に行った。

(1) TTによる指導の推進

- a 第1学年の数学科において、学習指導等支援教員が加わりTTによる指導を行っている。

イ 指導方法の工夫

(7) 各教科における「きめ細かな指導」

本校では「きめ細かな指導」を習熟の程度に応じた個別的な手立てとして、各教科の指導体制、学習形態、段階に応じたワークシートの開発や、意欲をもたせる評価活動の実践などを行っている。

(1) 問題解決的な学習の推進

職員研修で問題解決的な学習の意義やその学習の流れを共通理解し、教科や単元の特性に応じて、問題解決的な学習を取り入れている。

(7) 研究授業による検証

各教科における「きめ細かな指導」や問題解決的な学習の実際の在り方について各教科で研究授業、授業研究を行った。

【学習環境研究班】

ア 学習コーナーの設置と活用

生徒の学習意欲を喚起し、興味や関心を更に高める目的で、職員室前と各学級に「学習コーナー」を設置した。

イ 個に応じた学習支援の試み

(7) 朝自習の時間を利用したプリント学習

第1学年と第2学年において、定期テスト前の朝自習時間を活用し、範囲内の基礎的な問題プリントに取り組ませた。

(1) 放課後を利用した勉強会

定期テスト前の放課後に、テスト範囲の基礎・基本を学習するために勉強会を実施した。対象者は、希望する生徒、及び教科担任が必要であると判断した生徒である。

ウ 生徒会活動との連携

各教室にはこれまで「授業に取り組む約束」が掲げられていたが、生徒自身がそれを意識して授業に臨めるように、生徒会学習委員会で授業に臨

む際のスローガンを作成した。

【調査・連携研究班】

ア 学習に関するアンケートの実施

生徒・保護者の学習に対する意識や生徒の学習の実態を把握することを目的として、生徒と保護者を対象にしたアンケート調査を実施した。アンケートの結果については、他の研究内容と関連させたり、PTA新聞で紹介して家庭との連携に役立てたりした。

イ 標準学力検査の分析

1学期に実施した標準学力検査のデータを各教科ごとに分析し、本校生徒の学力の実態を明らかにした。これをもとに各教科のきめ細かな指導の在り方について協議した。

ウ 家庭や小学校との連携

(ア) 家庭との連携

PTA新聞で本校の学力向上の取組を紹介するとともに、家庭での学習習慣を身に付けさせるためのポイントや学習時間の目安をまとめた「家庭学習のポイント」を作成し、参観日の懇談で保護者の理解や協力の依頼を行った。

(イ) 小学校との連携

小・中連携の第一歩として、各校の研究主任・研究班長小・中連絡会を開いた。また、参観日を利用した授業参観、小・中連携に向けた職員アンケート(中学校)を実施した。

平成16年度	<p>テーマ 平成15年度と同じ</p> <p>研究の見通し 平成15年度と同じ</p> <p>研究の内容・方法 テーマを達成するために平成15年度の研究班をそのまま残し、これまでの成果と課題を踏まえて、次のような研究内容に取り組みたい。</p> <p>【授業研究班】</p> <p>ア 教育課程編成の工夫 (ア) 学校行事の精選 (イ) 選択教科開設の工夫 (ウ) 週時程の工夫</p> <p>イ 指導体制の工夫 (ア) 少人数指導の推進 (イ) TTによる指導の推進</p> <p>ウ 指導方法の工夫 (ア) 各教科における「きめ細かな指導」の推進 (イ) 問題解決的な学習の推進</p>
--------	--

エ 評価の工夫

(ア) 評価の種類とその利用方法

(イ) 形成的評価の推進

【学習環境研究班】

ア 生徒会活動との連携

(ア) 基本的な学習態度の確立を目指した取組

(イ) 学習環境の整備

(ウ) 学習コンテストの実施

イ 学習コーナーの充実

ウ 個に応じた学習支援の試み

(ア) 勉強会の充実

(イ) 基礎・基本確認プリントの設置

【調査・連携研究班】

ア 学習に関するアンケートの実施

イ 基礎学力調査や標準学力検査等の分析

ウ 家庭や小学校との連携

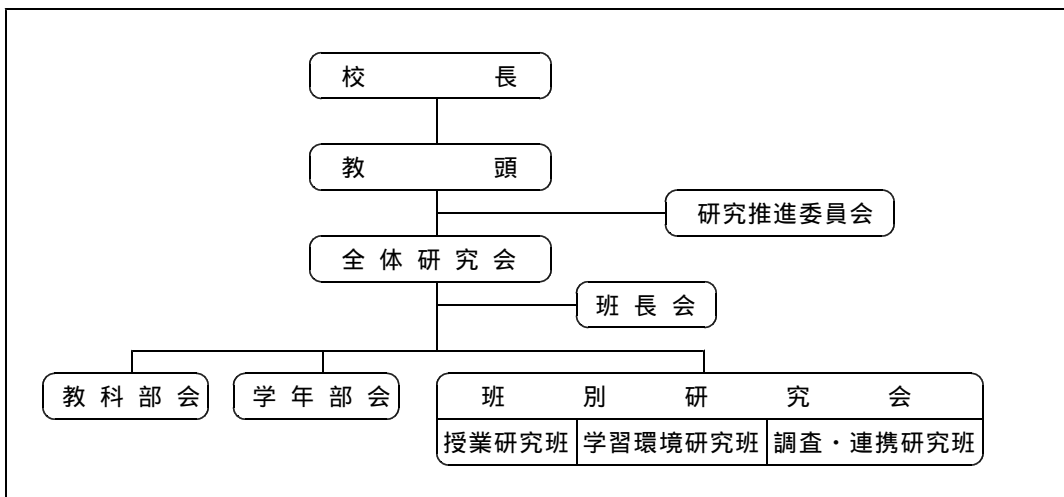
(ア) 家庭学習のポイントの推進

(イ) 学力向上通信の発行

(ウ) 小中連絡会の実施

エ ホームページの更新

(4) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

英語科・理科・数学科における少人数指導や学習指導等支援教員等によるＴＴを通して、生徒一人一人に基礎的・基本的な内容の定着が図れるような指導体制の在り方を研究することができた。

各教科における「きめ細かな指導」の捉え方を整理し、研究授業を行ったことにより、日頃の授業において指導方法の工夫・改善を図るきっかけとなった。

学習コーナーを設置したことにより、生徒の学習への興味・関心や意欲を喚起することができた。

定期テスト前に朝自習や放課後を利用して学習支援を実施したことにより、一人一人の生徒にきめ細かな指導ができ、理解が進んだ。

「授業に取り組む約束」を生徒が主体的に見直す機会を設けたことにより、よりよい学習態度の確立が進んだ。

生徒や保護者を対象にした「学習に関するアンケート調査」を実施したり、標準学力検査を各教科ごとに分析したりしたことにより、生徒の学力に関する実態を具体的に把握することができた。

「家庭学習のポイント」を整理したことで、家庭と一体となった学習指導ができた。

小・中連絡会を実施したことで、小学校からの学習をよりスムーズに中学校につなげることができた。

2. 今後の課題

各教科におけるきめ細かな指導の充実を図るため、共通のサブテーマの下に理論的・実践的な研究を具体的・定期的に行うこと。

課題発見能力や思考力・判断力、問題解決能力を育成するような学習指導過程の工夫について研究を更に深めること。

指導と評価の一体化を図った個に応じた学習支援を具体的にすすめること。

基本的な学習態度や家庭での学習習慣の定着に向けて、小・中学校学力向上連絡会議や小・中合同研修会を行い、家庭や小学校との連携を更に深めること。

学力向上の取組について、家庭や地域社会に理解と協力が更に得られるようにするため、具体的な方策をすすめること。

学力等把握のための学校としての取組

1 学習に関するアンケート（生徒用、保護者用）

(1) 目的：生徒の学習に対する意識や実態を把握するため。

(2) 内容：学習習慣、授業、家庭学習に関する項目。

(3) 時期：H 15 . 7月、H 16 . 2月、

2 標準学力検査（全学年）

(1) 目的：生徒の学力の実態を把握するため。

(2) 内容：国語、社会、数学、理科、英語（1年生は除く）の基礎的な問題。

(3) 時期：H 15 . 4月

3 基礎学力調査（第2学年）

- (1) 目的：当該学年の学力の実態を把握するため。
- (2) 内容：国語、社会、数学、理科、英語の基礎的な問題。
- (3) 時期：H 15 . 10 月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 . 学力向上フロンティアスクール授業公開

- (1) 日時：平成16年1月21日（水）11：45～16：05
- (2) 場所：小林市立小林中学校、及び小林市立南小学校
- (3) 対象：西諸県管内の各小学校・中学校、及び学力向上フロンティア事業西諸県地区学力向上協議会委員、他

2 . ホームページ作成中（平成16年3月開設予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13学級～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T . Tによる指導		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	